

令和 8 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト (県 立 鴻 巣 女 子 高 等 学 校)

目 指 す 学 校 像	(1) 自立した女性の育成	社会人としての基本的な生活習慣やマナーを身に付け、生きる力を育み、自己や他者の理解を深め、行動できる女性を育てる。
	(2) 社会に貢献できる人材の育成	基礎的・基本的な学力の向上を図り、多様な科目を通し、専門的な知識・技術を身に付け、地域と連携した実践的な学びを推進することで社会に貢献できる人材を育てる。

重 点 目 標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、自己や他者の理解を深める指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、社会に貢献する学校づくりを推進する。
---------	--

達 成 度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で校内は大変落ち着いており、計画的な学習活動が展開されている。また、ICT を効果的に活用し、プリント学習を取り入れたバランスの良い授業が積極的に行われている。 (課題) ICT の効果的な活用と従来の手法、それぞれ特徴を生かした授業を研究する必要がある。また、観点別評価への理解を深め、より適切に実施していく必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①授業ごとに年間学習計画を周知することで、明確な学習目標を生徒に持たせる。また、学期ごとに学習を振り返らせ、まとめさせる(学年・授業担当)。 ②学習の方法(予習・復習等)を生徒に具体的に指示することで、学力の底上げを図るとともに家庭学習時間の増加につなげる(授業担当)。 ③ICT 機器・プリント教材の有効な利用法についての研修会を行い、授業での ICT 活用とプリント等の併用を支援する(複数回実施)。 ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、観点別評価への理解を深め、教員間の学び合いの機会を増やし授業の充実を図る(複数回実施)。	①学習に関する意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ③授業での ICT 活用状況・頻度と併用状況 ④研修会等の実施状況と成果			
2	(現状) 自立した社会人となれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、学年と進路指導部の連携が図れ、卒業時の進路決定率も高い水準にある。 (課題) キャリア教育の充実を図り、進路に対する生徒の意識を高める必要がある。学校としては、進学希望者の増加、学部学科の多様化に対応した指導の充実と自己実現に向けて取り組むことのできる体制を一層整える必要がある。また、保護者に対する情報発信・進路意識の涵養も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テストを有効に活用するため、各生徒の実態を把握し、結果分析、研修会を行う。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に行わせて、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談の実施により生徒の実態を丁寧に把握し、個に応じた指導を行うことで進路未決定者を減少させる(進路部・担任)。 ④講演会や学年懇談会などで、保護者へ進路関係の情報を発信する(進路部)。 ⑤外部との連携を図り、進学・就職希望者向けの特別講座を実施する(学年・進路部)。 ⑥将来の進路を考える進路探究を充実させる。	①テスト等の結果分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ④進路未決定者の割合(前年度比較) ⑤保護者の進路行事参加状況及び情報発信状況 ⑥実施内容・回数など ⑦総合的な探究の時間の活用			
3	(現状) 「授業5原則」等の全校的な取組により生徒の基本的な生活習慣や自己管理能力は高い水準にある。学校行事に多くの生徒が主体的に参加しているが、より積極性を引き出したい。 (課題) 豊かな人間性を育めるよう支援体制を充実させ生徒の積極性を引き出す自己肯定感を高める指導が必要である。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図る必要がある。	生徒の自己肯定感、コミュニケーション力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善できたか。	①生徒手帳の活用を計画的に指導し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させるとともに、生徒の自己管理の状況を把握・指導する(クラス担任)。 ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会)。 ③生徒が落ち着いた環境で生活できるよう、日常的に荷物ダイエット等粘り強い指導を行う(学年)。 ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えるとともに、教員研修会を実施する(体制の整備・強化)。	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ④自己管理意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ⑤各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ⑥個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比較)			
4	(現状) 地域や大学等との交流事業が充実しつつある。鴻巣市等のボランティアへの参加も堅調である。 (課題) 生徒の社会貢献意識は高く、外部機関とWIN・WIN の関係づくりを学校全体で進めていくことが必要である。また、多くの中学生や保護者に本校を知ってもらうため、情報発信に努める必要がある。	外部との連携を深め、生徒の活躍の場を広げられたか。外部に効果的に情報発信ができたか。	①外部との連携を深めるとともに、多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に指導・支援する(通年:生徒部、教科担当)。 ②各種の体験活動、外部連携事業等の充実を図る(担当)。 ③学校説明会や HP の充実を図ることで、中学生とその保護者に本校への理解を促進する(担当)。 ④Web ツールを活用した情報配信や HP の積極的な更新、学校通信の発行により、情報発信を強化する(通年)。	①③地域交流等の実施状況と成果 ②体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年比較) ③説明会へ参加した中学生の人数 ④配信回数、記事数、発行回数など			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		